

総括目標の基データの分析(安心感とその背景)

[基データ]

・地域共生社会推進課が実施する「県民の安心感に関するアンケート」に障害関連項目として、身障手帳等の所持の有無を追加し、障害部門の分析を行っている。(令和5年度以降継続実施)

《Q:あなたは安心して暮らしていると感じていますか。》

⇒1:十分感じている 2:多少感じている 3:あまり感じていない 4:全く感じていない 5:わからない

《Q:あなた、もしくはあなたの同居している家族に障害のある人がいますか。》

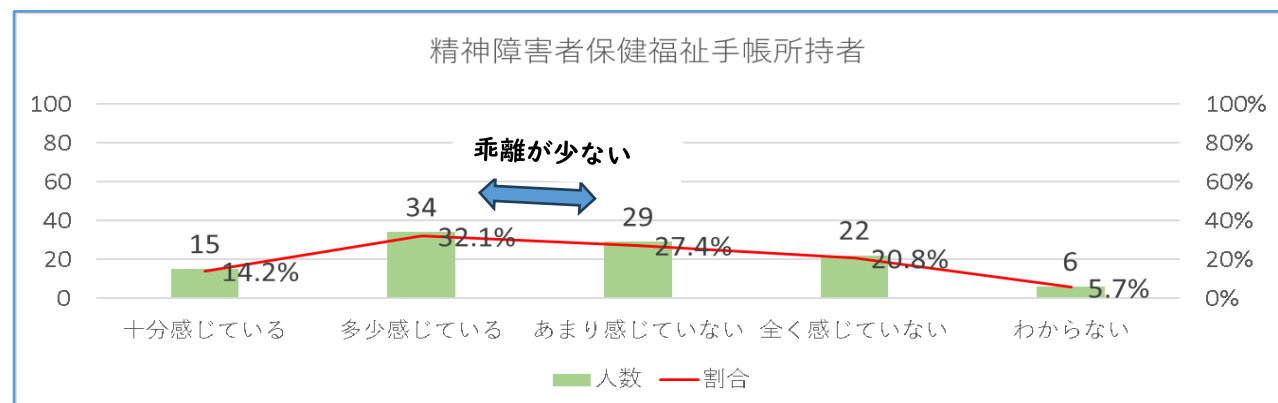
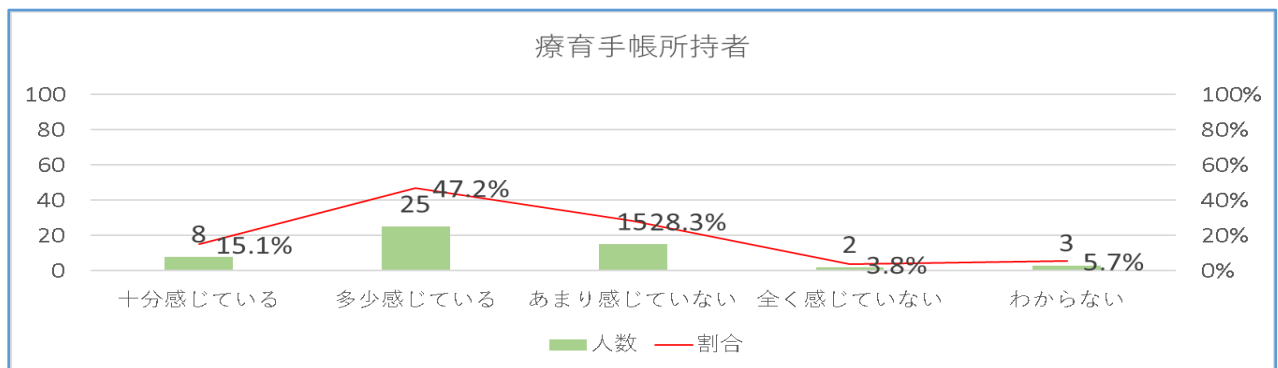
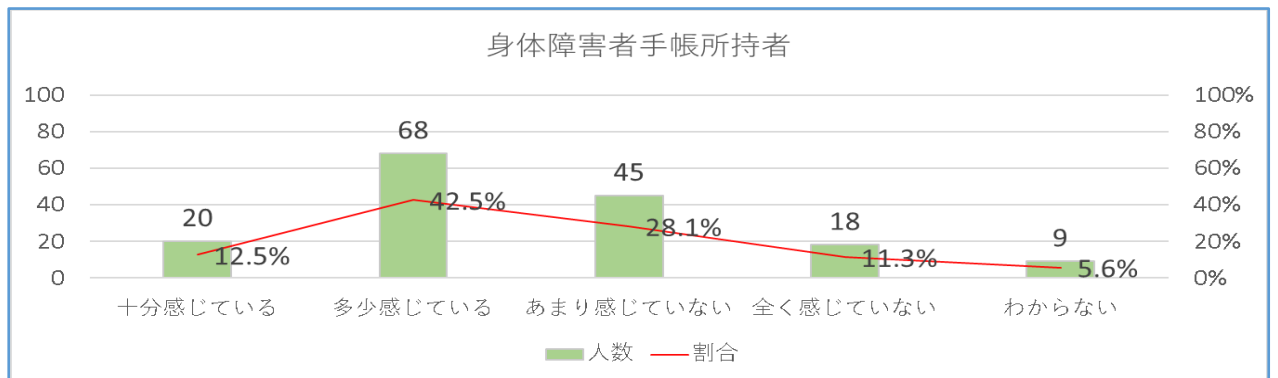
⇒選択肢:身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、その他、いない(重複手帳所持者あり)

■今回の分析

・調査項目が多岐に及ぶため、安心感とその背景に関連する項目(世帯収入・日常生活での悩みごと等)に焦点を当て、安心感の要因分析を改めて整理したもの。[N値:354をベース検証]

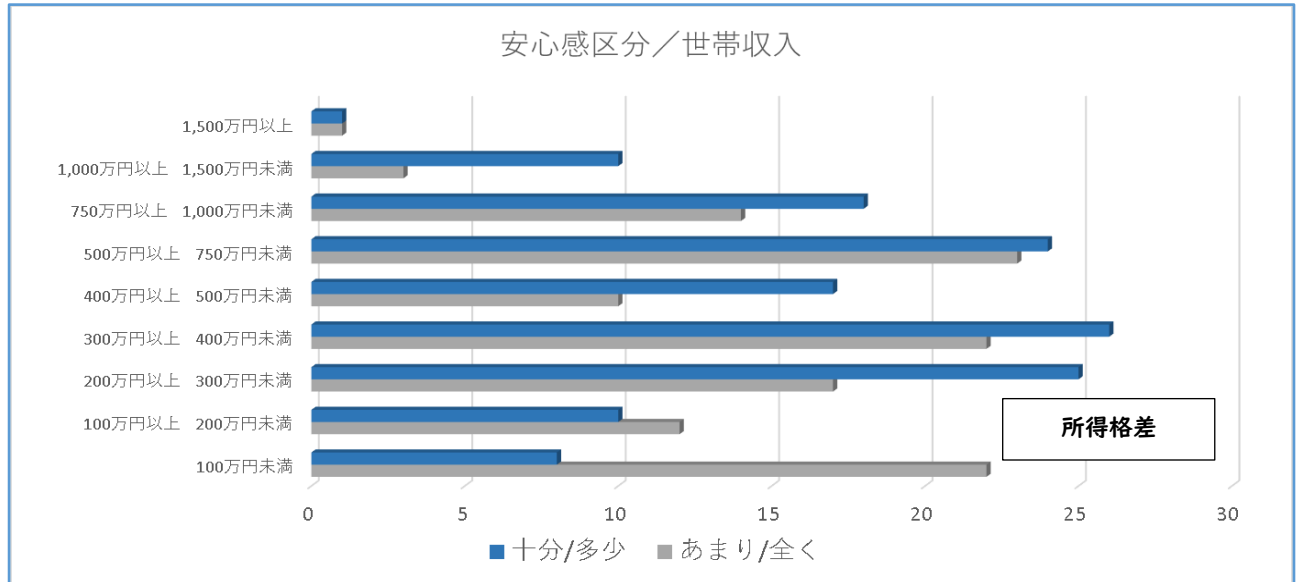
1 障害種別ごとの安心感

比率構成で見た場合、精神障害者手帳所持者の安心感は、他の手帳に比べて低いが、「多少感じる」と「あまり感じない」の乖離が少ないため、「あまり感じない」の真因を分析することで、安心感へ繋げる取組みの検討の可能が考えられる。



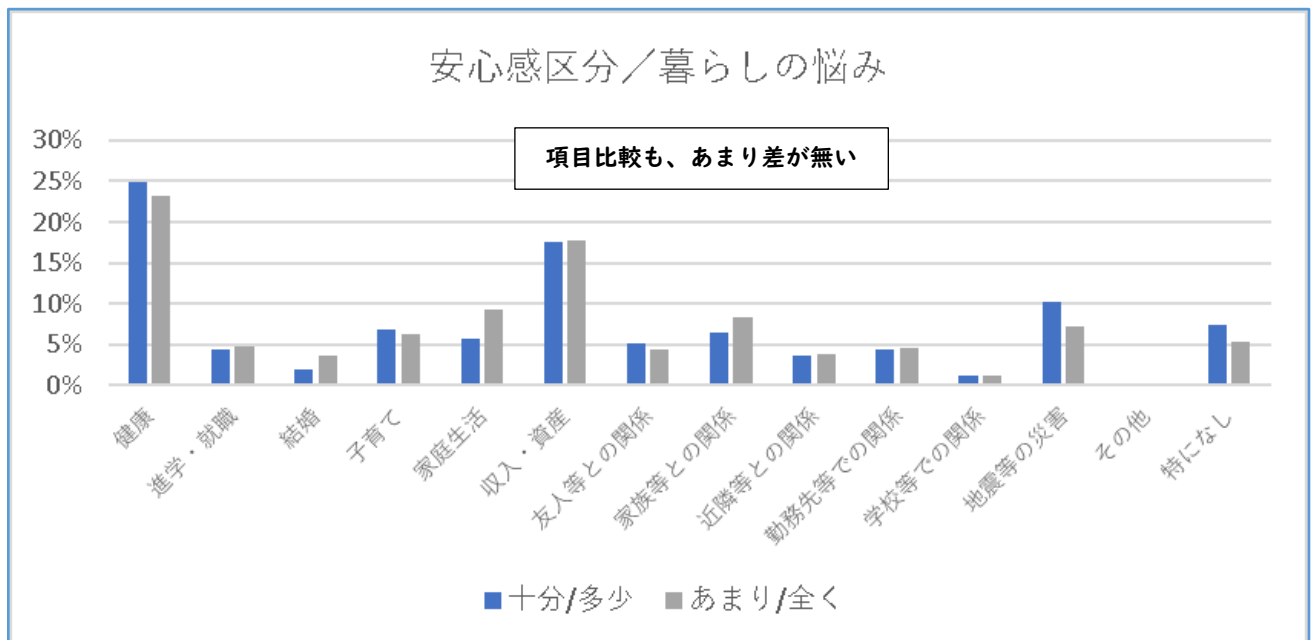
2 安心感と世帯収入

世帯収入と安心感は比例しているものと推測できるが、例えば「300 万円以上400万円未満」や「500 万円以上 750 万円未満」でも安心感が得られていない件数が多いことから、詳細分析は困難であるが、経済的な負担が大きいなどの要因は推測できる。



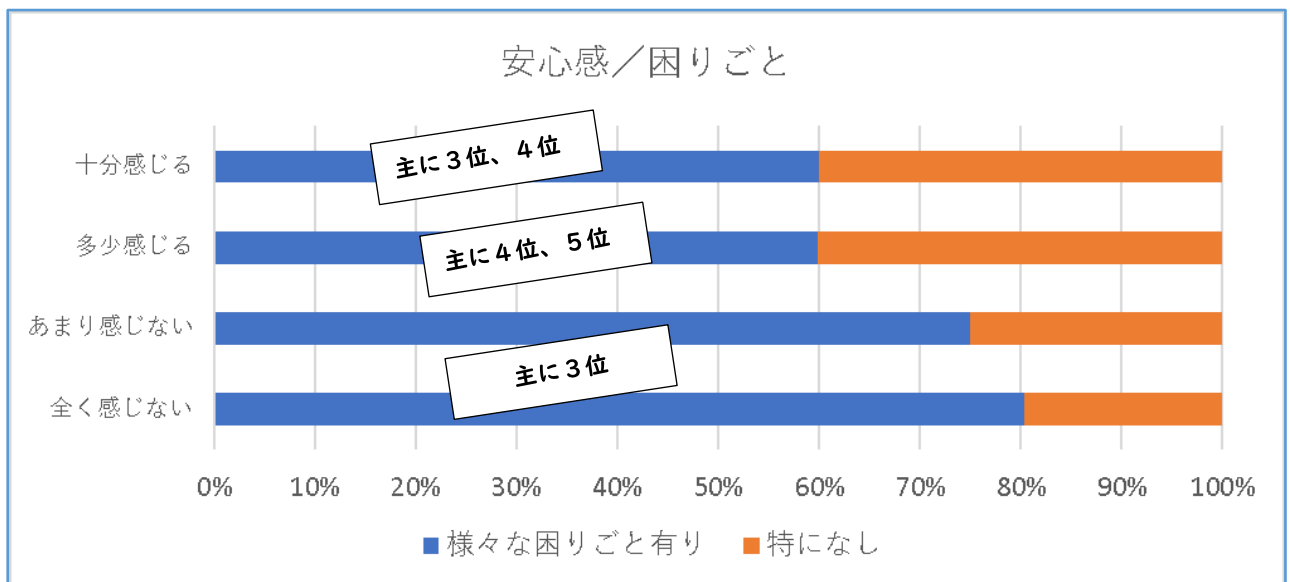
3 安心感と普段の暮らしの中での悩みごと等

安心感の区分別に比率比較した場合でも、ほぼ同程度であり、生活する上での悩み等に安心感に比例しないことが分かる。



4 安心感と身の回りの困りごと等

困りごとが「特になし」と安心感は総じて比例しているが、県民全体の「特になし」は、64.7%であり、手帳所持者等と比較すると、身の回りの困りごとは一般より多いと考えられる。



[主な困りごと] ※障害に関するものを除く

3位: 経済的困窮(住居・就労不安定を含む)に関すること(70件)

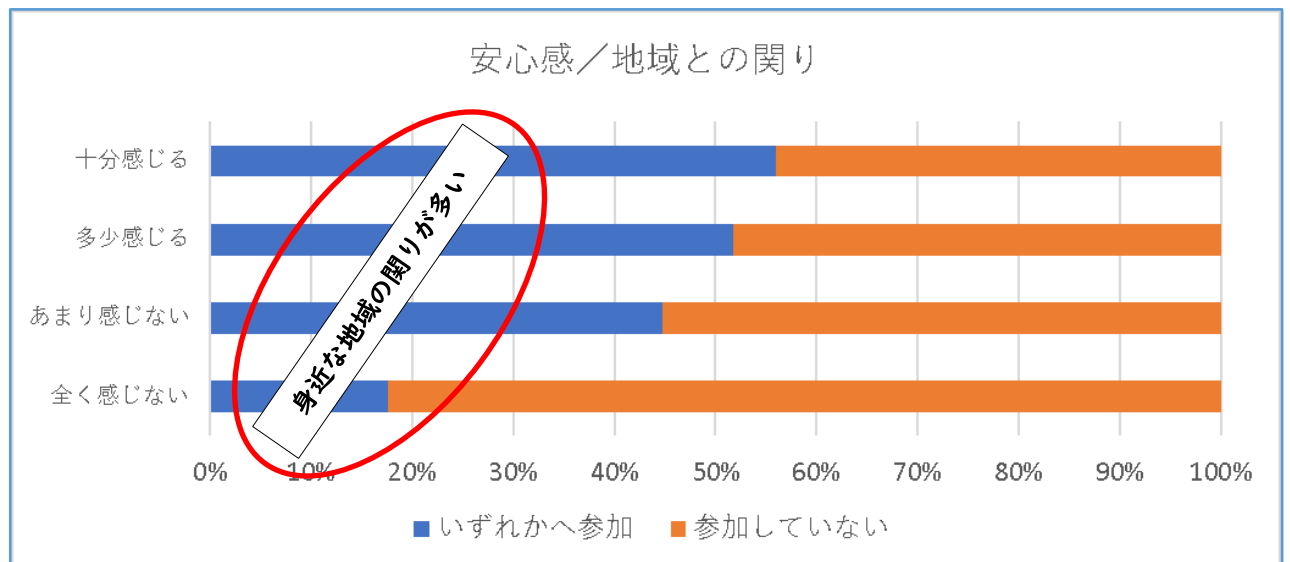
4位: 認知症や介護に関すること(68件)、5位: 病気や怪我(入院・事故など)に関すること(60件)

6位: 子育て(養育困難・不登校など)に関すること(29件)

7位: ひきこもりに関すること、社会的に孤立していること(25件)

5 安心感と地域との関り

安心を感じていない人ほど、地域との関りが無い状況が確認できる。なお、県民全体の「参加していない」は、59.5%の結果に対し、「あまり感じない」と回答した方でも、県民全体を上回る地域との関りを持っている結果となっている。比較的、地域との関りを大切にしていることが伺える。



[直近1年間の比較的多い活動状況]

主な活動参加 1位: 町内会活動(70件) 2位: 趣味・サークル活動(41件)、

3位: 祭り・盆踊り・運動会などイベント(29件)

4位: 公園などの美化・清掃活動、健康づくり・スポーツに関する活動(25件)

5位: PTA・学校行事に関する活動(24件)

※参加していない方の理由を聞くことで取組みの方向性も見えてくると考えられる。

§ アンケート調査の追加や同調査から得られる分析の深堀りや当事者インタビューを通して、真の障害への理解促進に向けた具体的な取組を検討していくこととしている。